

河川堤防の決壊

台風や前線の活動により豪雨が続き、河川の水位が上昇して堤防が決壊することがあります。堤防が決壊すると、大量の水が一気に住宅地や田畑などに流れ込んで大きな被害をもたらします。愛媛県松山市の立岩川と高知県安田町の安田川の例をお伝えします。

■明治19年の立岩川堤防の決壊（愛媛県松山市）

明治19年（1886）9月、暴風雨に見舞われ、立岩川の堤防が数箇所決壊して大惨事となりました。神田・波田・八反地の3村（旧正岡村）では22日に立岩川の高土手堤防約1,300mが決壊し、溺死者9人、家屋流失10数戸、田地流失45haの被害が出ました。また、25日には尾儀原、オノ原など立岩川流域各村（旧立岩村）で立岩川の堤防が数箇所決壊して洪水となり、被害は溺死者18人、家屋の流失74戸、半壊97戸、田畑流失294ha、溺死牛馬14頭、被災者644人に及びました。立岩川堤防の修築工事は明治20年に実施され、明治26年にオノ原の地蔵堂前に立岩川洪水碑が建立されました。＜北条市誌編集委員会編「北条市誌」1981年、愛媛県警察史編さん委員会編「愛媛県警察史第1巻」1973年など＞



■大正元年の安田川堤防の決壊（高知県安田町）

大正元年（1912）8月23日夜、土佐沖を北上してきた台風が香美郡夜須付近に上陸し、安芸郡は暴風雨と高潮により甚大な被害をこうむりました。続いて9月22日夜半に県東部海岸をかすめて北上した大型台風により、安芸郡では21日～22日の合計雨量が500ミリ前後となり、風水害の被害が大きく、また、その経路が室戸台風に似ていて、安芸郡全域に高潮による被害も大きくなりました。安田村（現安田町）は全体的に大きな被害を受け、古老の話によると「松の大木が根こそぎ倒れ、台風時には無数の火が飛んで昼のようであった」と伝えられ、大正時化（しけ）と呼ばれていました。二度の台風で安田川では西島の堤防が決壊して氾濫しました。安田川大橋のたもとには災害復興記念碑が建立されています。＜吉本珖編「新安田文化史」1975年、高知県編「高知県災害異誌」1966年＞

